

1 【活動の趣旨】

子どもたちが体験を通して、地域のよさや素晴らしさに触れることができる活動を企画し、地域の方々とふれあいながら学びを深めていく。

2 【特徴的な活動内容】

5年生では、「お米を育てよう」の学習で、田植え体験からお世話になっている地域ボランティアの方々に来ていただき「収穫祭」を行った。

「収穫祭」では、水田で育てたうるち米ともち米を炊いて食べた。米の種類の違いによる食感や味の違いを感じたり、100%玄米を炊いて食べたりし、収穫できた感謝の気持ちを持つことができた。

また、脱穀したあとの稲わらを使って「飾りづくり」にも取り組んだ。藁の編み方をボランティアの方に教えていただき、リースを作ることができた。昔は藁を使って米を入れる俵を作ったり、縄や草履など生活に必要な物を作ったりすることも学び、何でも無駄なく使い切る先人の知恵に触れることができた。



【5年 収穫祭飾り作り】

3 【実施に当たっての工夫】

活動を通して、地域の方々の思いが子どもたちにしっかりと伝わり、相互に学び合い、響き合えるよう、担任も交えた事前打ち合わせをしっかりと行うよう心がけてきた。また、活動が単発の取り組みに終わるのではなく、事後の感想やお礼の手紙を届けたり、発表会や収穫祭等に来ていただいたりして、子どもたちの学習の成果を見ていただく機会を持ち、継続して関わり合う中で「つながり」を大切にしてきた。



【5年 収穫祭 縄体験】

4 【事業の成果】

ボランティアに関わってくださっている方の多くは、長年にわたって継続的に本校に関わってくださっている。そのため、学習のねらいや大まかな流れを把握してくださっているので、毎年担任が交代しても、スムーズに学習を進めることができ、大変助かっている。また、全国学力・学習状況調査での質問項目「今住んでいる地域の行事に参加していますか」を見ると、本校の児童は、全国あるいは全県に比べて毎年ポイントが高い。これは、学習を通して地域とのつながりがしっかりと築かれていることの証であると考えている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問項目もポイントが高いことから、出会い、関わることで、自分のめざす将来の生き方像につながってきていると考えられる。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

ボランティアの方の高齢化が進み、活動によっては継続が危ぶまれるものもある。また、よりよい活動をと願うボランティアさんの思いが、学習時間の超過や学年相応でない学習活動につながることもあり、無理なく、限られた時間の中でより良いものにしていくためにも、事前の打ち合わせをしっかりとしていきたい。